



2025年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年4月24日

上場会社名 株式会社キングジム
コード番号 7962

上場取引所

東

URL <https://www.kingjim.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 木村 美代子

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長
兼 C F O

(氏名) 原田 伸一 (TEL) 03-3864-5883

配当支払開始予定日

—

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年6月期第3四半期の連結業績(2024年6月21日～2025年3月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第3四半期	28,781	0.7	386	—	715	—	388	—
2024年6月期第3四半期	28,590	△1.2	△245	—	24	△90.0	△73	—

(注) 包括利益 2025年6月期第3四半期 316百万円(△6.0%) 2024年6月期第3四半期 337百万円(△47.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第3四半期	13.83	13.77
2024年6月期第3四半期	△2.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年6月期第3四半期	38,311	24,252	63.1	859.17
2024年6月期	35,025	24,301	69.1	861.90

(参考) 自己資本 2025年6月期第3四半期 24,165百万円 2024年6月期 24,214百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2025年6月期	—	7.00	—		
2025年6月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年6月期の連結業績予想(2024年6月21日～2025年6月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	41,000	3.7	530	—	700	437.3	490	17.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2025年6月期3Q	31,459,692株	2024年6月期	31,459,692株
2025年6月期3Q	3,333,516株	2024年6月期	3,365,785株
2025年6月期3Q	28,108,838株	2024年6月期3Q	28,547,942株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料は、本日、当社ウェブサイトに掲載する予定です。
決算補足説明資料 <https://www.kingjim.co.jp/ir/library/tansin.html>

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、世界的な金融引き締めに伴う為替変動や継続的な物価上昇の影響により、今後の先行きは依然として不透明な状況にあります。当社がおかれている環境は、国内市場における生産年齢人口の減少やフレキシブルな労働環境、業務の効率化といった働き方の変化に大きな影響を受けております。このような状況のもと、「社会の変化の波をチャンスと捉え新たな成長へ」をテーマに掲げ、第11次中期経営計画（2025年6月期から2027年6月期）の目標達成に向けた取り組みを実行してまいります。既存ビジネスを強化しながら、「サービス事業への展開」「ライフスタイル分野の拡大」「海外事業の強化」の3つの骨太の方針を遂行してまいります。今後もお客様のご要望や時代のニーズに合わせた製品開発を積極的に行い、一層の需要の拡大に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は287億8,181万円（前年同期比0.7%増）となりました。利益面では、売上総利益率の改善（前年同期比1.5ポイント増）、販売費及び一般管理費率の改善（前年同期比0.6ポイント減）により、営業利益3億8,676万円（前年同期は2億4,590万円の損失）、経常利益7億1,564万円（前年同期は2,443万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億8,872万円（前年同期は7,389万円の損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、従来の「インテリアライフスタイル事業」を「ライフスタイル用品事業」に名称変更いたしました。これに伴い、経営管理区分を見直し、従来「文具事務用品事業」に含めていた当社の連結子会社であるウインセス㈱は、「ライフスタイル用品事業」に区分を変更しております。

前年同期との比較は、変更後の区分に基づいております。

① 文具事務用品事業

「テブラ」や防災用品等の売上があったものの、ステーションリーの売上減により、売上高は182億1,198万円（前年同期比1.5%減）となりました。利益面では、売上総利益率の改善や、物流コスト削減プロジェクトなどによる販管費の減少により、営業利益2億5,917万円（前年同期は4億4,066万円の損失）となりました。

各領域の主な内容は、以下のとおりであります。

ラベルライター「テブラ」では、「テブラ」PROシリーズで環境に配慮した再生材料を本体に初めて使用し、ユニバーサルデザインフォントを搭載した「テブラ」PRO SR-R560を発売いたしました。また、仕事や暮らしを快適にする「テブラ」の働く現場での活用術をまとめた「#おねがいテブラ」の動画を公開しました。「テブラ」と専用のWindows向けラベルソフト「テブラ クリエイター」を活用して、職場の気になることや悩みを解決する様子を動画や写真で紹介しています。今後も働く人々が抱く悩みの声を集め、「テブラ」の汎用性を活かした提案を行ってまいります。

ステーションリーでは、「テフレーヌ」のリングノートタイプで、若い世代でトレンドとなっている“Y2Kデザイン”を採用した「テフレーヌネオ」と、学校などで配布されるプリントを簡単に「テフレーヌ」に綴じるための「テフレーヌ4穴ミニパンチ」をラインアップに追加しました。

スタイル文具では、「HITOTOKI NOTE（ヒトキノート）」シリーズのリングノートタイプや、コンパクトに持ち歩くことができるマスキングテープ「KITTA（キッタ）」シリーズの新作を発売いたしました。

また、2025年2月には東京インターナショナル・ギフト・ショー春2025に出展し、当社商品を幅広い業界にご紹介しました。

EC事業では、自社ECサイトやECモールに出店している複数のEC店舗を運営しております。自社ECサイトでは、セールの実施や新商品の予約受注に加え、防災用品の需要増やSNSで話題となった商品の販売増などにより売上が伸長しました。「Latuna（ラチュナ）」では、まな板やダイニングマットなどの新規商材が好調に推移した一方で、各モールにおける価格競争により既存商材の売上が低下しました。

海外事業では、世界的に経済が先行き不透明な状況で推移する中、当社の海外向け輸出は増加したものの、一部の海外拠点における外部売上が苦戦している状況にあります。第11次中期経営計画では、海外事業戦略の最重要地域として、中国、および、ベトナムを中心としたASEAN諸国を挙げております。中国では、女性をメインターゲットとしたステーションリーブランド「HITOTOKI」や中国オリジナルブランド「可麗塔（クリータ）」の販売が好調に

推移しています。引き続き、中国の若者に人気のある現地のクリエイターのデザインを採用した商品の企画や、中国のファッショントレンドを取り入れたデザインを施した付加価値型の商品企画を進めています。ベトナムでは、2023年12月にPC接続専用「テプラ」PRO SR5900GSの発売以降、本体、テープともに大きく売上が伸びています。その他、デジタルメモ「ポメラ」DM250をベースとしたアメリカ合衆国向けの新モデルpomera DM250USの販売を開始しました。アメリカ合衆国のクラウドファンディングサイト Indiegogoにて発売キャンペーンを実施し、バックカーから支援をいただきました。

(注) 「可麗塔(クリータ)」には中国語簡体字を含んでいるため、日本語常用漢字で代用しております。

② ライフスタイル用品事業

ライフオンプロダクツ(株)と(株)アスカ商会の売上が好調に推移し、すべての国内子会社の売上が前年同期を上回ったこともあり、売上高は105億6,982万円(前年同期比4.7%増)となりました。利益面では、円安や原材料高騰などによる売上総利益率の低下、および(株)ぼん家具の販管費が大きく増加したため、営業利益1億1,401万円(前年同期比35.6%減)となりました。

各子会社の主な内容は、以下のとおりであります。

(株)ぼん家具は、モール別ではAmazonでの売上が前年を大きく超過し、商品別では若年層向けの新ブランド「PUTUPUTU」シリーズやおまごとキッチンにより、主力の収納用品が伸びました。照明カテゴリやペット関連商品なども売上に貢献しています。また、自社工場であるPT. KING JIM INDONESIAで生産された木製マルチラックなどの販売を開始し、好調に推移しました。しかし、円安や原材料高騰による原価上昇、および販促費用や在庫保管料などの増加により減益となりました。

ライフオンプロダクツ(株)は、ルームフレグランスブランド「mercyu」商材の展開強化を行い、バレンタインシーズンを意識したデザインのリードディフューザーや、手頃なサイズのアロマキャンドルなど、ギフト需要に沿った新商材を導入し、好調に推移しました。円安の影響はあるものの原価率が改善し、売上也大きく増加したことにより増益となりました。

(株)ラドンナは、好調な電子レンジ用グリルパンの大口導入とキッチン家電新コレクションの売上加算により、主力のキッチン雑貨の復調傾向が続きました。加えて、年末から年始にかけての気温冷え込みにより加湿器が好調に転じたことで前年を上回る売上となりましたが、円安などによる原価上昇や販管費の増加により減益となりました。

(株)アスカ商会は、引き続き関東を中心にオフィス装飾やブライダル関連装飾が好調でした。主要カテゴリであるグリーン類は、昨年は装飾案件の減少および欠品もありましたが、今年は大きな欠品もなく各種装飾案件に対応できており、好調に推移しました。円安などによる原価上昇はありましたが、売上が大きく増加したことにより増益となりました。

ウインセス(株)は、エレクトロニクス業界の復調により主要市場向け製品の出荷数量が徐々に増加し、EC販売の成長も続きました。新規販売ルートの開拓も進行中です。円安などによる原価上昇はありましたが、売上の増加により増益となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して、32億8,675万円増加し、383億1,178万円となりました。これは主に、現金及び預金や商品及び製品が増加したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して、33億3,577万円増加し、140億5,946万円となりました。これは主に、運転資金需要等として短期借入金が増加したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して、4,902万円減少し、242億5,231万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が増加した一方、為替換算調整勘定や退職給付に係る調整累計額が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月1日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,081,388	7,742,985
受取手形	228,134	210,874
売掛金	5,109,797	5,192,359
商品及び製品	9,692,136	10,767,404
仕掛品	361,939	339,076
原材料及び貯蔵品	1,301,432	1,280,269
その他	581,215	815,545
貸倒引当金	△463	△650
流動資産合計	23,355,581	26,347,865
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,203,924	6,204,703
減価償却累計額	△4,208,512	△4,289,350
建物及び構築物（純額）	1,995,412	1,915,352
機械装置及び運搬具	3,594,239	3,540,732
減価償却累計額	△3,248,704	△3,237,671
機械装置及び運搬具（純額）	345,535	303,060
土地	1,570,022	1,570,022
建設仮勘定	51,955	42,688
その他	3,225,175	3,266,826
減価償却累計額	△2,896,175	△2,876,552
その他（純額）	329,000	390,273
有形固定資産合計	4,291,925	4,221,397
無形固定資産		
のれん	1,055,692	905,647
その他	801,511	1,126,433
無形固定資産合計	1,857,203	2,032,081
投資その他の資産		
投資有価証券	3,116,368	3,185,057
退職給付に係る資産	1,787,241	1,882,380
繰延税金資産	146,151	149,039
その他	474,928	495,224
貸倒引当金	△4,367	△1,260
投資その他の資産合計	5,520,322	5,710,441
固定資産合計	11,669,451	11,963,919
資産合計	35,025,032	38,311,785

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月20日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	901,078	1,702,479
短期借入金	3,530,000	6,440,000
1年内返済予定の長期借入金	437,806	599,233
未払法人税等	269,430	148,871
未払金	808,057	791,967
役員賞与引当金	11,387	6,398
契約負債	38,730	49,691
その他	1,137,192	1,058,033
流動負債合計	7,133,682	10,796,674
固定負債		
長期借入金	1,738,288	1,302,792
繰延税金負債	913,146	986,615
退職給付に係る負債	500,213	500,154
資産除去債務	30,270	36,749
その他	408,088	436,482
固定負債合計	3,590,007	3,262,793
負債合計	10,723,690	14,059,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,978,690	1,978,690
資本剰余金	1,718,919	1,717,975
利益剰余金	21,562,202	21,557,382
自己株式	△2,975,833	△2,947,298
株主資本合計	22,283,979	22,306,750
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,165,269	1,212,672
繰延ヘッジ損益	2,677	△3,673
為替換算調整勘定	555,801	487,021
退職給付に係る調整累計額	206,525	162,458
その他の包括利益累計額合計	1,930,274	1,858,478
新株予約権	87,088	87,088
純資産合計	24,301,342	24,252,317
負債純資産合計	35,025,032	38,311,785

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月21日 至 2024年3月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2025年3月20日)
売上高	28,590,364	28,781,813
売上原価	17,961,800	17,641,168
売上総利益	10,628,563	11,140,645
販売費及び一般管理費	10,874,469	10,753,875
営業利益又は営業損失(△)	△245,905	386,769
営業外収益		
受取利息	17,728	17,813
受取配当金	102,989	97,527
為替差益	71,509	70,542
受取賃貸料	111,925	112,447
その他	33,987	113,423
営業外収益合計	338,141	411,754
営業外費用		
支払利息	33,345	44,190
賃貸収入原価	33,265	35,034
その他	1,185	3,654
営業外費用合計	67,796	82,880
経常利益	24,438	715,643
特別利益		
固定資産売却益	137,747	—
特別利益合計	137,747	—
特別損失		
固定資産売却損	7	—
固定資産除却損	3,228	195
特別退職金	49,868	—
特別損失合計	53,104	195
税金等調整前四半期純利益	109,081	715,447
法人税、住民税及び事業税	173,945	251,226
法人税等調整額	12,671	70,574
過年度法人税等	△3,644	4,925
法人税等合計	182,972	326,726
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△73,891	388,721
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△73,891	388,721

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月21日 至 2024年3月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2025年3月20日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△73,891	388,721
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	219,814	47,403
繰延ヘッジ損益	△3,854	△6,350
為替換算調整勘定	207,483	△68,780
退職給付に係る調整額	△12,412	△44,067
その他の包括利益合計	411,030	△71,795
四半期包括利益	337,139	316,926
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	337,139	316,926

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱いおよび「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期および前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表および連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表および前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)およびのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年6月21日 至 2024年3月20日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年6月21日 至 2025年3月20日)
減価償却費	466,950千円	524,132千円
のれんの償却額	180,420千円	150,044千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年6月21日 至 2024年3月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	文具事務用品 事業	ライフスタイル 用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,496,240	10,094,124	28,590,364	—	28,590,364
セグメント間の内部売上高 又は振替高	57,760	176,107	233,867	△233,867	—
計	18,554,000	10,270,231	28,824,231	△233,867	28,590,364
セグメント利益又は損失(△)	△440,667	177,182	△263,484	17,579	△245,905

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額 17,579千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年6月21日 至 2025年3月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	文具事務用品 事業	ライフスタイル 用品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,211,987	10,569,826	28,781,813	—	28,781,813
セグメント間の内部売上高 又は振替高	70,391	226,372	296,763	△296,763	—
計	18,282,378	10,796,198	29,078,577	△296,763	28,781,813
セグメント利益	259,176	114,018	373,195	13,574	386,769

(注) 1. セグメント利益の調整額 13,574千円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「インテリアライフスタイル事業」を「ライフスタイル用品事業」に名称変更いたしました。これに伴い、経営管理区分を見直し、従来「文具事務用品事業」に含めていた当社の連結子会社であるウインセス㈱は、「ライフスタイル用品事業」に区分を変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の名称および区分により作成したものを記載しております。